

「第3回弁天町駅周辺まちづくり検討会」 議事要旨

■ 日 時 令和6年2月20日（火） 午後3時30分から午後5時30分

■ 場 所 港区役所 5階 502、503会議室

■ 出席者 別添の「出席者名簿」のとおり

■ 議事要旨

1. 開会

座長よりあいさつ後、議事開始

2. 議事

1) 弁天町駅周辺まちづくりビジョン（案）について

・事務局より、弁天町駅周辺まちづくりビジョン（案）について説明後、意見交換を実施。

【主な意見】

●「1. ビジョンの目的・検討範囲」に関して

・区内の様々な企業に、ビジョンに基づく活動に関与・活動してもらい、共に区を盛り上げることができるよう、行政だけの計画ではないことが読み取れるように、目的の部分の関係者をより具体化すべき。

●「6. まちづくりの基本的な考え方」に関して

- ・今後、JRやメトロ、ベイタワーと協力し、それぞれのオープンスペースの活用を連携させ、点をつなげ面に広げるようなチャレンジを進めたい。
- ・ウォークラブルな空間形成がビジョンに謳われているが、具体的な空間のイメージがあった方が分かりやすい。
- ・将来的に弁天埠頭など周辺の開発状況が見えてきた段階においては道路空間の再構築は必要だと考えるが、当面は、バリアフリー基本方針の実現に向けた取組を進めつつ、エリアリノベーションの実績があるメトロとともに、歩きたくなるような緑化や店舗を増やしていった、点のにぎわいを面的な広がりにはしていければ。
- ・道路空間の再構築など物理的な対策を待つだけでなく、活動先行で進める方法もある。例えば、地域の空き地を活用しながら、人の活動で取組を拡大していく方法など。
- ・弁天町から外に向かって波及していくという考え方が重要。ただ歩きやすいというだけでなく、水辺などへも波及していくには様々なモビリティを活用していくべき。
- ・駅北側の歩道橋のバリアフリー化も実現したいところであるが、物理的に困難な状況。南側においては、国道43号をまたぐ地下道があり、そのエレベータ改修を大阪国道事務所で実施中であり、万博開催までには完了する見込み。

●「5. 弁天町駅周辺まちづくりコンセプト」及び「7. 取組イメージ」に関して

○『場』に関するコンセプト及び取組イメージについて

・前回議論のあった「ニシの玄関口」については、ベイエリアの入り口という意味と、大阪都心部への西側の入り口という2つの意味を併せ持つと解釈し、まち側にも海側にもひら

いた結節点として、「世界にひらかれたニシの玄関づくり」を掲げている。

- ・他になかなかない本ビジョンの特徴としては、『場』『人』それぞれのトップにある「国際拠点ベイエリアとの連携」と「多文化共生によるまちづくり」。民間開発で参入したいと思う企業がビジョンを見たときに、一番目に着くように具体的に書いてあれば良い。
- ・弁天町は人がくつろげる空間が少ない。気軽にくつろげる空間が増えてくるとにぎわいが大きく変わってくる。最近の他都市事例ではそういった空間にカフェやプロジェクションマッピングができるようになってきているが、視覚的に変わると、まちの印象が変わる。
- ・日本の都心部では、なかなか気の利いた中ぐらいや小さな広場がなく、開発で大きなものを整備することが多い。例えば鉄道間の連絡通路などの小さなスペースに小さな店もある居心地よい空間ができてくれば良い。

○『環境』に関するコンセプト及び取組イメージについて

- ・「水みどりのある暮らし豊かな環境の創出」というコンセプトに関して、弁天町エリアに水やみどりの印象を持っている人は少ない。港区土地区画整理記念・交流会館の壁面緑化をはじめとし、小さいところから事業者の協力のうえ増やしていき、実現につなげたい。
- ・クルースポットの形成、長時間クルーザーを停泊するような活用は、まだまだ可能性がある。川沿い海沿いをうまく活用することによって活性化がはかれる大きな機運になる。周辺の都市や施設を見ながら、行政主導でなく民間主導で水辺を活用していく方策を練ってほしい。
- ・象徴的なみどりの場所があると良い。市岡商業高校跡地でできれば象徴的な場所になるかと思うが、知らないところでもいいところはたくさんあると思うのでうまく見つけられれば。

○『人』に関するコンセプト及び取組イメージについて

- ・少子高齢化のなか、さらに地震などの災害があると、その後にまちづくりをしても、人が戻らないという課題があるが、外国人がコミュニティに入りやすい等のまちであれば、人が戻ってくるので、継続的なまちづくりをすることが望ましい。
- ・地域で防災訓練をやってもなかなか若い人が集まらないという声を受けるが、外国の方に参加していただいて、外国人側は情報がほしいし地域は力で助けてもらえるし、というような交流が生まれてくるといいモデルになる。
- ・地域人権ベースでの多文化共生というのが一つ。例えば些細なことではゴミ出しのルールを教えるとか地域とお互いの理解を深め合うという、生きるために必要な共生を進めることを時間はかかりながらも積極的に進めていく。もう一つは、ビジネスの視点で外国人観光客が楽しめるまちにするため、英語の表記の充実や多言語でのお店の紹介などを進めていきたい。
- ・ゴミ出しのルールのような共同体としての共通認識も重要だが、外国の方のコミュニティを展開する場がなかなかないので、楽しんだり交流したりする場を企業とともに生み出したり共有したりできれば、もっと受け入れやすいまちになる。
- ・ベトナム料理店や食材店が増えてきているが、そこに集う若者が楽しめる場所が必要。行政のみで発展させていくのには限界があるので、今後メトロがエリアリノベーションを展開していく際に、歴史も踏まえつつニューカマーを受け入れる展開と一緒に考えていけたら。
- ・例えば、能登半島地震において、輪島塗の文化・産業が壊滅的な被害を受けており、一日で壊れてしまったものを、新たに作り上げるのにはとても時間がかかるということからも分かるように、文化・産業の発展は非常に重要。

- ・歴史のリソースをしっかりと保全しながらどう活かしていくか。このエリアで意欲をもった地元企業や住民が埋もれているはずであり、そういった方々をうまく活用できるよう、「人の掘り起こし・育成」の中でうまく具体化できる部分があるのではないかな。

●「8. まちづくりのロードマップ」に関して

- ・息の長いまちづくりを考えていくためには、本日の検討会のような継続して関係者が情報交換できる場は重要。
- ・ロードマップには色々な取組が書かれているが、例えば多文化共生や水・みどりなど、どれかに力点を置いて進めてもよいのではないかな。
- ・まちづくりに参画したい、自分たちのまちを自分たちでよくしたい、と考えて熱意を持っている方を巻き込んでいくためには、行政側で絞って旗を立て過ぎない方がよい。ビジョンができた次のステップとして、そういった方々と具体化していきたい。
- ・ロードマップにある「万博まで」はあと1年ほどしかないが、「未利用地の暫定活用を通じたにぎわいづくり」として、弁天町で何をしていくのか、議論し決めていき、なるべく早く発信していきたい。
- ・港区万博として令和6年度及び万博開催の令和7年度も、防災やコスプレのイベントを外国の方も交えて開催したい。
- ・大阪関西国際芸術祭が万博の年に、大阪文化館・天保山（旧サントリーミュージアム）をメイン会場にして開催することが決定しており、市岡商業高校跡地などいくつかの場所をサテライト会場にできないか調整中。
- ・企業にとってみると、万博を機にどのような人たちが来るのか、どんなニーズがあるのかわからないので、何を準備したらよいか分からない状況ではないかな。
- ・海外パビリオンのスタッフは半年以上滞在され、近畿圏を色々と観光されることが想定される。京都や奈良といった有名な観光スポットの次、2番手、3番手の楽しむ先として弁天町を選んでいただき、口コミやSNSで広めていただければ更なるにぎわいとなるのではないかな。
- ・万博時の未利用地の暫定活用は、しっかりしたハードを整備しない方がよい。形が決まってしまうとテーマが一つに決まってしまう。半年の間、柔軟にテーマを変えて、毎回楽しめる形にした方がよい。各未利用地やオープンスペースで連動して取り組んでいくためにも、可変性を持つべき。
- ・計画が共有できれば、各事業者も連携して同時開催する、もしくは交互にイベントを開催するなどの方法がとれる。
- ・年間で決まっているイベントは共有していった方がよい。場所さえあれば面白い展開をできる人々はたくさんいると思うので、多くの人を巻き込んでいきたい。

2) その他

- ・パブリック・コメントの2月26日からの実施など、今後のスケジュールについて確認。

3. 閉会

以上